

# 一般教育における「総合基礎科目」 の役割—その 2—

永田 照子 小川真理子

## I. はじめに

平成9年度の報告<sup>1)</sup>に続いて、一般教育における「総合基礎科目」の役割、意義、さらに効果の測定について考察を試みたい。

その目的のために本年度もシリーズの初めと終了後に、受講生の意識・態度の変化などについて調査を実施した。

調査の結果を中心に検討したいと思う。

## II. 平成10年度における総合基礎科目について

本年度のテーマは「輝く女性の時代に！」とした。前年度の「21世紀を生きる」と大筋では異なるものではないが、間近に迫った21世紀を女性として前向きに積極的に輝いて生きて欲しいとの願いを込めたものであった。

テーマ：『輝く女性の時代に！』

各回の題：「女性観の変遷—おとぎばなしにみる—」：イギリスのおとぎ話・民話の分析から時代を読む

「エレクトロニクス時代と女性」

「私のカメラアイ」：写真家の目を通したアジア

「これからのエネルギーと生き方」

「健康と美を求めて」：栄養学からの考察

「社会の中の女性」

「日本の女性とフランスの女性」：フランスからの留学生の目を通して

「今、世界で」：貧困と飢餓について

「ネットワークを広げる、生き方をひろげる」

「一筋の道を究めて～ようこそ、「ソフィーの世界へ」～」：

ラジオドラマの女性演出家の道筋

「夢を追いかけて」：劇団「ステップワン」（本学卒業生）のこれまで、これから

初回にはオリエンテーション，最終回にはまとめを実施した。

各回ごとの講義レポート（講義に対する感想・意見・質問など）と期末のレポート（テーマに関連する問題を一つ取り上げ，関連する本を呼んで講義と関係づけ，自分の考えを論述するもの）の提出を求めた。

本年度の学生の受講者数は 289 名，社会人の参加は 18 名であった。

### III. 総合基礎科目『輝く女性の時代に！』における調査について

調査は，本科目の受講生を対象に受講前と受講後の 2 回，アンケート方式で行った。なお，社会人の受講者には別途受講後に懇談会を催し感想・意見を聞いた。

#### 1. 受講前の意識調査

調査項目は，前年度の調査との比較をする意味でいくつかの項目は同じものを用いた。すなわち，21 世紀について持っている全体的なイメージと 21 世紀について持っている不安，希望，さらに環境問題，社会問題について持っている関心事，情報社会で興味を持っているもの，などであった。その他に，本年度のテーマに関わる女性の生き方に関する項目を加えた。

#### 2. 受講後の調査

調査項目は，今年度の総合基礎科目のシリーズで関心を持った問題，受講後の認識・態度の変化，21 世紀を輝く女性の時代とするために持っている現在の気持ち，社会人参加について，などであった。

#### 3. 社会人の受講者に対する調査

このシリーズで関心を持ったテーマ，受講後の感想，学生の態度，などであった。

### IV. 調査の結果

#### 1. 受講前の意識調査について

##### 1) 21 世紀を色で表すと何色か（表 1）

ブルー，白，グレー，の順であった。色の表している意味合いは難しいがブルー，白で 6 割近くを占めていることは，爽やかなイメージを抱いているということであろうか。この質問は受講後にも設けられているので表 1 にま

とめて示されている。

2) 21世紀について不安に思っていることは表2に示されている（複数回答）。環境破壊，地震・災害，経済の行き詰まりの順で多く，これら3項目で7割を占めている。環境破壊については，最近，環境ホルモン，ダイオキシンなどが身近な問題としてマス・コミでしばしば取りあげられており，また地震・災害については，ここかしこで地震が起こっていて大地震が近いのではないか，あるいは日本列島全体が地震の活動期に入ったとの情報もあり，当然不安の上位にでてくるものであろう。参考までに平成9年度（昨年）の回答をあげたが，順序に変わりはないものの相対的に経済の行き詰まりがやや多くなっており，これは現在の日本の経済状況を反映していると思

表1 21世紀を色で表すと（％）

色	受講前	受講後
ブルー	31.2	24.4
白	25.9	33.6
グレー	11.1	6.9
ピンク	8.5	8.8
黄色	7.4	10.3
緑	6.9	7.3
紫	3.7	1.9
赤	3.7	1.9
その他	1.6	5.0

表2 21世紀への不安（3つまで回答）

	平成10年（％）	平成9年（％）
環境破壊	147（29.3）	205（32.5）
地震・災害	112（22.4）	157（24.9）
経済の行き詰まり	92（18.4）	77（12.2）
戦争	39（7.8）	40（6.3）
エネルギーの不足	39（7.8）	62（9.8）
社会保障の先細り	37（7.4）	46（7.4）
人口の増加	18（3.6）	—（—）
エイズのまんえん	17（3.4）	43（6.8）
延べ回答数	501	630

われる。

3) 21世紀について持っている希望について（複数回答3つまで可）の結果は（表3）、環境の整備が一位で前記の環境破壊の不安を何とか解決して欲しいという願いがこめられている。生活の豊かさが若干減少しているのは、前述の経済の行き詰まりへの不安と対応するものである。昨年度との比較でも一位が環境整備であることには変わりがない。宇宙への進出、女性の地位の向上が生活の豊かさと入れ替って順位をあげている。

4) 環境問題への関心では（複数回答3つまで、表4）、地球の温暖化、空気・水の汚染、オゾン層の破壊の順で、身近な問題への関心が高い。昨年との比較のため、環境ホルモン、ダイオキシンの項目を設けなかったので直接関心の程度をみることができなかったが、空気・水の汚染の中にある程度含まれていると思われる。昨年度と同様の回答であった。

表3 21世紀への希望（3つまで）

	平成10年（%）	平成9年（%）
環境整備	80（19.1）	124（20.9）
宇宙への進出	70（16.7）	77（13.0）
女性の地位の向上	69（16.5）	84（14.1）
生活の豊かさ	64（15.3）	104（17.5）
国際文流の発展	62（14.9）	86（14.5）
科学技術の発達	54（12.9）	76（12.8）
開発途上国の発展	20（4.8）	43（7.2）
延べ回答数	419	594

表4 環境問題への関心（3つまで）

	平成10年（%）	平成9年（%）
地球の温暖化	109（23.5）	113（17.2）
空気・水の汚染	97（21.0）	138（21.0）
オゾン層の破壊	87（18.8）	31（20.0）
リサイクル	61（13.2）	97（14.8）
動物の絶滅	48（10.4）	66（10.1）
身近な自然の消	36（7.8）	83（12.7）
熱帯雨林の破壊	25（5.4）	28（4.3）
延べ回答数	463	656

5) 社会問題への関心では（複数回答3つまで、表5）、景気、ファッション、少子化現象の順に多く、ここでも身近な問題への関心が高い。この結果もまったく昨年度と同じであった。

6) 今後の情報社会で興味を持っているものは（複数回答可、表6）、インターネット、次にパソコン通信で昨年同様これらへの関心の高さがうかがえる。

7) 母親（最も身近な女性）の状況は表7に示されている。パートタイムで仕事が多く、家事中心、フルタイムで仕事の順である。母親の仕事への参加の程度については永田<sup>2)</sup>の以前の調査においてもパートタイム、専業主婦、フルタイムの順であった。

8) 学生が将来どのような生き方をしようと考えているか（表8）についてみると、フルタイムであれ、パートタイムであれ、仕事にずっと関わって

表5 社会問題への関心（3つまで）

	平成10年（%）	平成9年（%）
景気	108 (27.7)	122 (23.2)
ファッション	80 (20.5)	115 (21.9)
少子化現象	63 (16.2)	88 (16.7)
異文化の交流	35 ( 9.0)	41 ( 7.8)
セクハラ	33 ( 8.5)	28 ( 5.3)
経済摩擦	27 ( 6.9)	28 ( 5.3)
難民	24 ( 6.2)	65 (12.4)
ホームレス	20 ( 5.1)	39 ( 7.4)
延べ回答数	390	526

表6 情報社会への関心（複数回答）

	平成10年（%）	平成9年（%）
インターネット	162 (40.9)	228 (43.6)
パソコン通信	108 (27.3)	57 (30.0)
コンピュータによる作曲・演奏	35 ( 8.8)	35 ( 6.7)
コンピュータで絵を描く	34 ( 8.6)	43 ( 8.2)
動画（アニメ・映画）の作成	33 ( 8.3)	33 ( 6.3)
電子出版（編集・出版など）	24 ( 6.1)	27 ( 5.2)
延べ回答数	396	523

表7 母親（最も身近な女性）の状況（％）

パートで仕事	27.2
家事中心	24.2
フルタイムで仕事	16.6
趣味を楽しむ	14.8
ボランティアで活躍	2.7
生涯学習	1.3
その他	3.1

表8 将来の生き方（％）

項 目	受講前	受講後
育児から手が離れたらパートタイムの仕事につきたい	40.4	40.8
結婚・出産に関わらず仕事を続ける	22.8	20.4
育児から手が離れたら再びフルタイムの仕事につきたい	11.4	19.6
結婚したら仕事はやめる	10.4	11.2
結婚後、出産したら仕事はずっとやめる	7.3	3.1
結婚・出産に関わりなく仕事にはつきたくない	1.0	3.1
その他	6.7	1.9

表9 母親の状況と娘の将来の生き方の関係（人数）

娘の将来の生き方	母親の状況						
	パート	家事中心	フルタイム	趣味	ボランティア	生涯学習	その他
育児から手が離れたらパートタイムの仕事につきたい	39	23	10	15	1	0	2
結婚・出産に関わらず仕事を続ける	17	10	11	5	3	0	5
育児から手が離れたら再びフルタイムの仕事につきたい	11	6	2	2	1	1	0
結婚したら仕事はやめる	7	8	2	4	1	0	0
結婚後、出産したら仕事はずっとやめる	4	7	2	3	0	0	1
結婚・出産に関わりなく仕事にはつきたくない	1	0	1	0	0	0	0
その他	3	2	8	5	0	0	0

いきたいとする人は約 75% で、残りがいずれは家庭中心の生活をと考えているようである。この質問は受講後にも設けられたので、表 8 にまとめて示されている。

9) 母親（最も身近な女性）の状況が学生である娘の将来の生き方になんらかの影響をもっているのかどうかを調べたのが（表 7 と表 8 のクロス）、表 9 に示されている。統計的には一定の関係があることは有意にはならなかった。

その他の質問についてはここでの報告は割愛する。

## 2. 受講後の調査について

1) 受講後の 21 世紀の色による表現は（表 1）、白，ブルー，黄色の順であった。受講前がブルー，白，受講後が白，ブルーの結果は前回の調査（平成 9 年）と一致する。これが何を意味するのか，21 世紀をキャンバスに描くのはまだこれからということであろうか。

2) 今年度のシリーズで最も関心を持った問題については表 10 に示されている（回答は 1 つのみ）。

「健康と美を求めて」が最も多く、次いで「夢を追いかけて」、「女性観の変遷」、「今、世界で」であった。講義後のレポートからみると、女子短大生にとっては健康と美は最も身近な問題であり、特に栄養学からのアプローチはダイエットとの関係もあり、関心が持たれたようである。「夢を追いかけて」は、自分たちの先輩（それほど年齢が離れていない）たちが活躍する様子がいきいきとした表情で語られることに関心が寄せられたと思われる。

表 10 本シリーズで最も関心のあったテーマ (%)

健康と美を求めて	24.0
夢を追いかけて	16.3
女性観の変遷	14.4
今、世界で	12.5
私のカメラアイ	8.0
社会の中の女性	7.6
ネットワークをひろげる、生き方をひろげる	6.1
日本の女性とフランスの女性	4.9
エレクトロニクス時代と女性	2.7
一筋の道を究めて	2.3
これからのエネルギーと生き方	1.1

「女性観の変遷」は、おとぎ話に登場する主人公の描き方が時代を反映して異なっていることに驚きを感じたようであった。また「今、世界で」では貧困と飢餓にあえぐアジアの人々の様子がスライドによって語られたことが関心を引き起こしたようであった。

決して高い数値ではなかったが、エレクトロニクスやエネルギー、一筋の道を究めるといった真面目で地味なテーマに関心を示した学生もあった。これらは18歳の女の子達のとびつきやすいテーマではなかったが、内容の深さで学生の心をとらえたものであろう。

3) このシリーズを受講した後の認識・態度の変化については、12項目について、「変わらない」から「変わった」まで5段階評価と、同時に簡単な理由の記述を求めた。その結果は図1-1から図1-12に示されている。

12項目についての全体的な変化をみるため、それぞれの値を独立と見做すには疑義があるが、大まかな傾向をみるために仮に独立と見做し、12×5のマトリックスによる尤度比検定を行った。図1において、上向きの矢印(↑)2つは1%の有意水準で1つは5%の有意水準で他の項目との比較においてその項目を選択した者の比率が高いことを示し、下向きの矢印(↓)はそれぞれの項目を選択した者の比率が低いことを示している。また5段階評価について「変わらない」1点、「あまり変わらない」2点、「どちらとも

表 11 受講後の認識・態度の変化—加重平均値\*

夢と目標の実現化	3.89
インターネットの利用法	3.75
食事の取り方と健康	3.72
音と声で創られるイメージ	3.65
貧困と飢餓について	3.65
アザアの女性と子どもについて	3.49
女性の自立	3.42
社会性報の受け取り方	3.37
日常生活とエネルギー	3.00
国際交流について	2.92
家庭のあり方	2.51
結婚に対する考え方	2.30

\* 変わらない1点, あまり変わらない2点, どちらともいえない3点, 少し変わった4点, 変わった5点



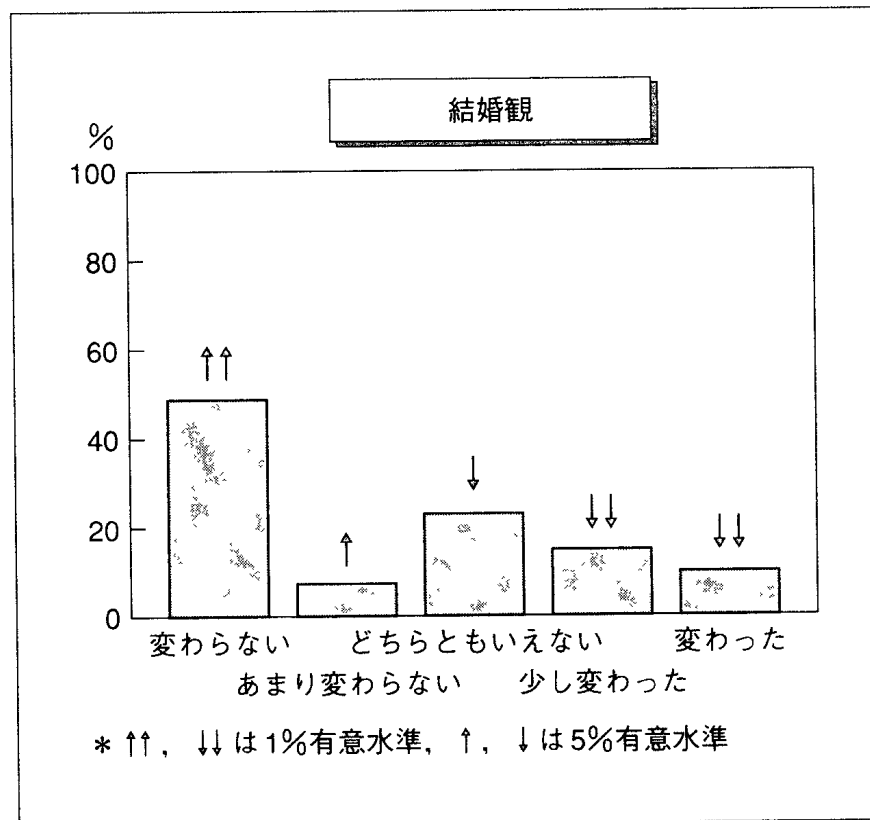


図 1-1

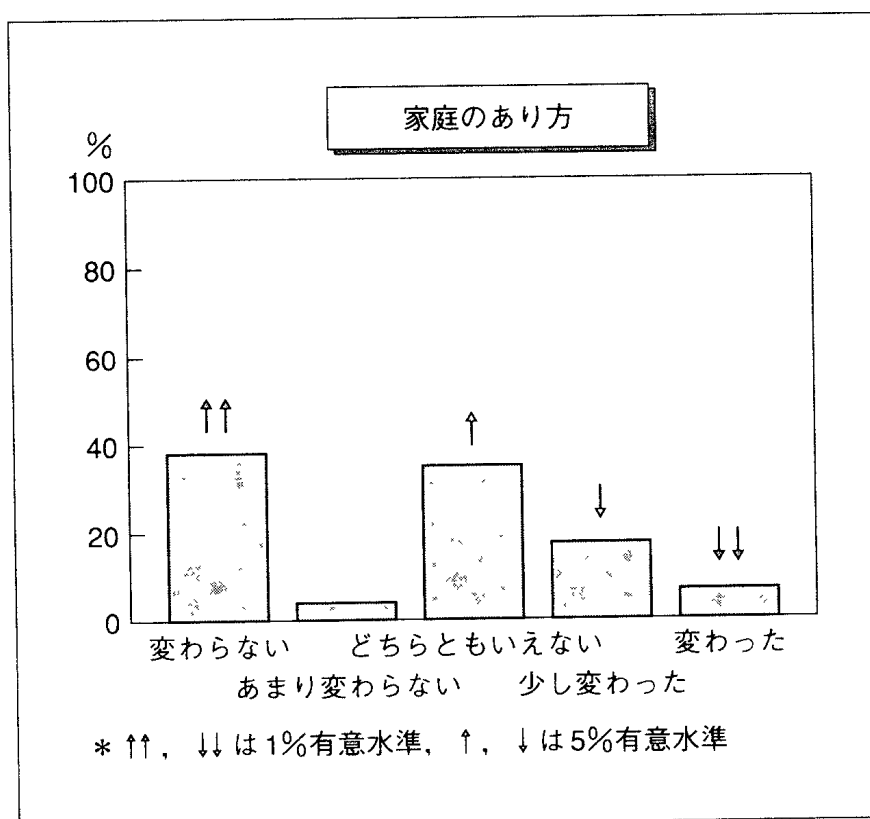


図 1-2

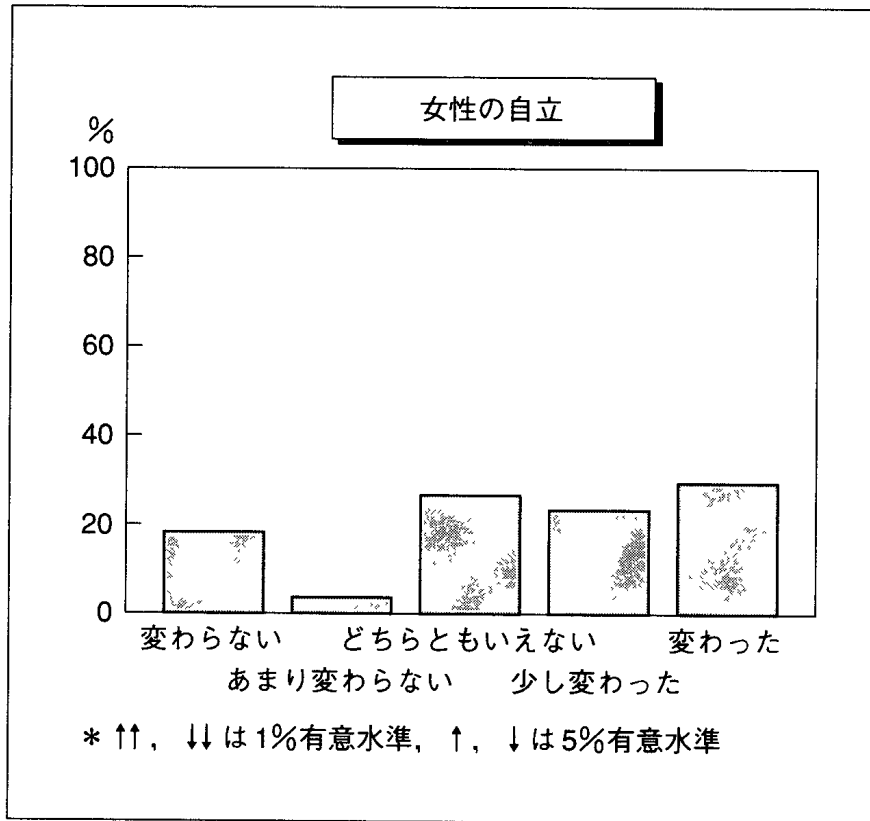


図 1-3

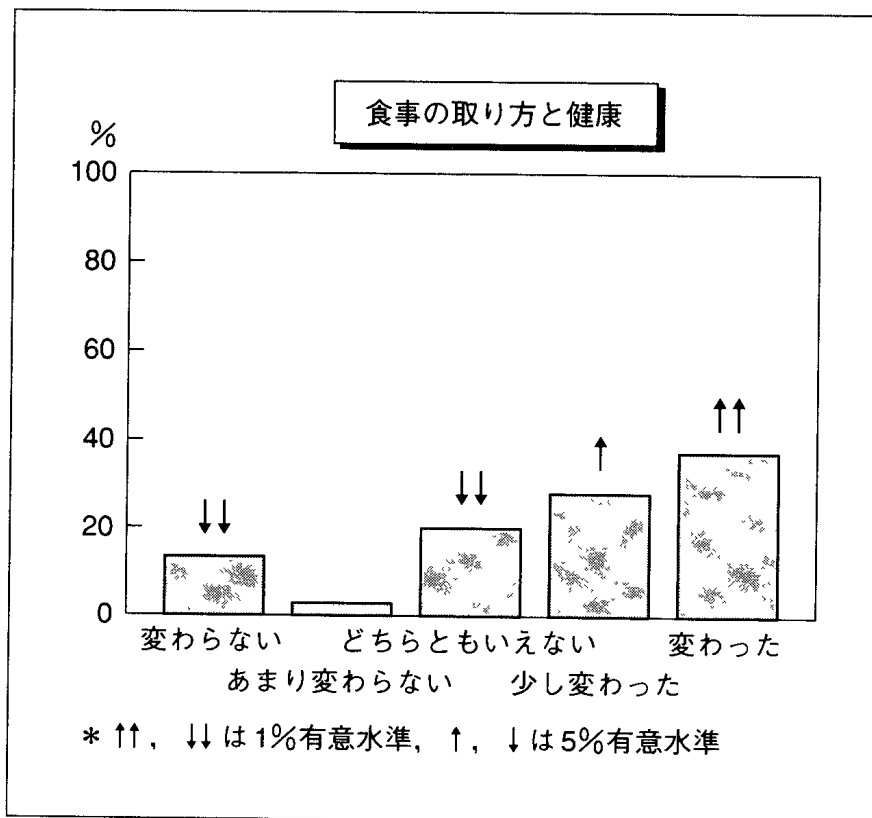


図 1-4

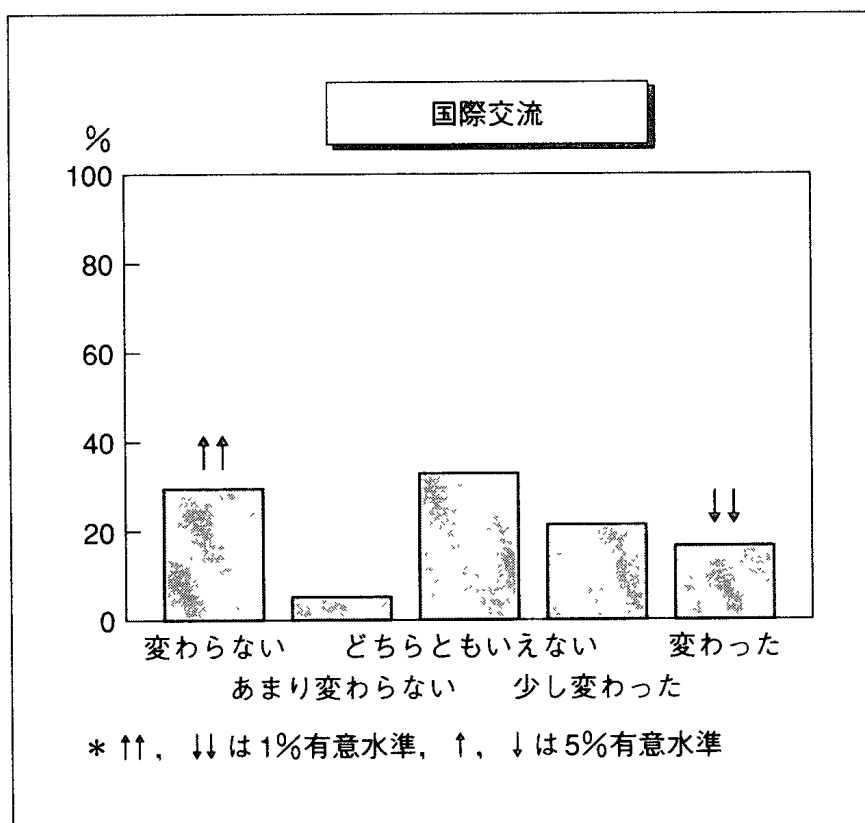


図 1-5

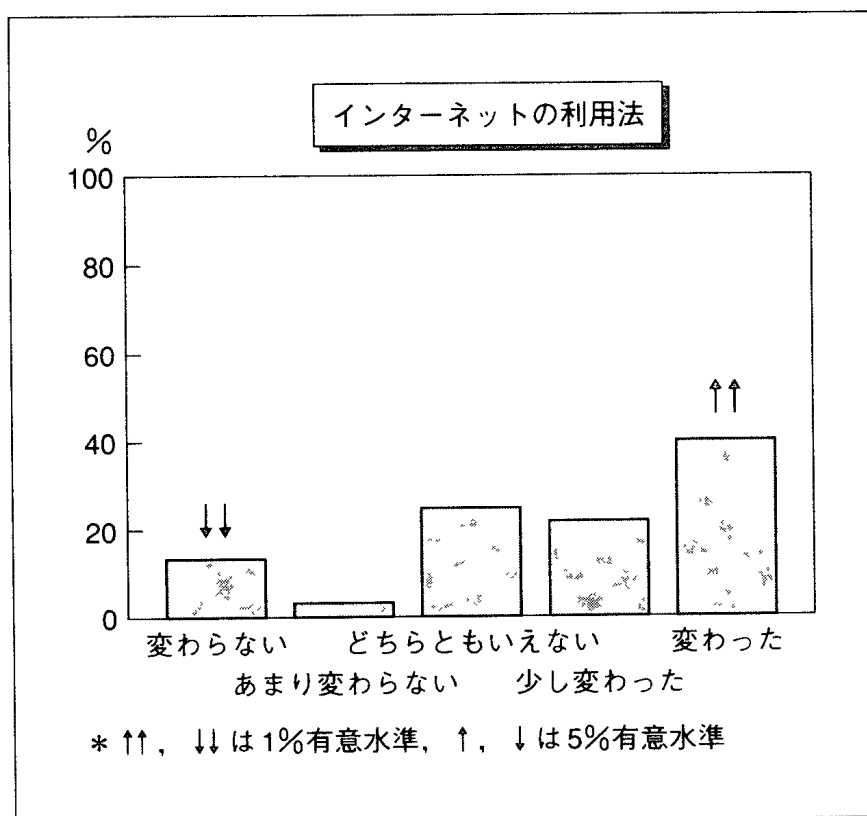


図 1-6

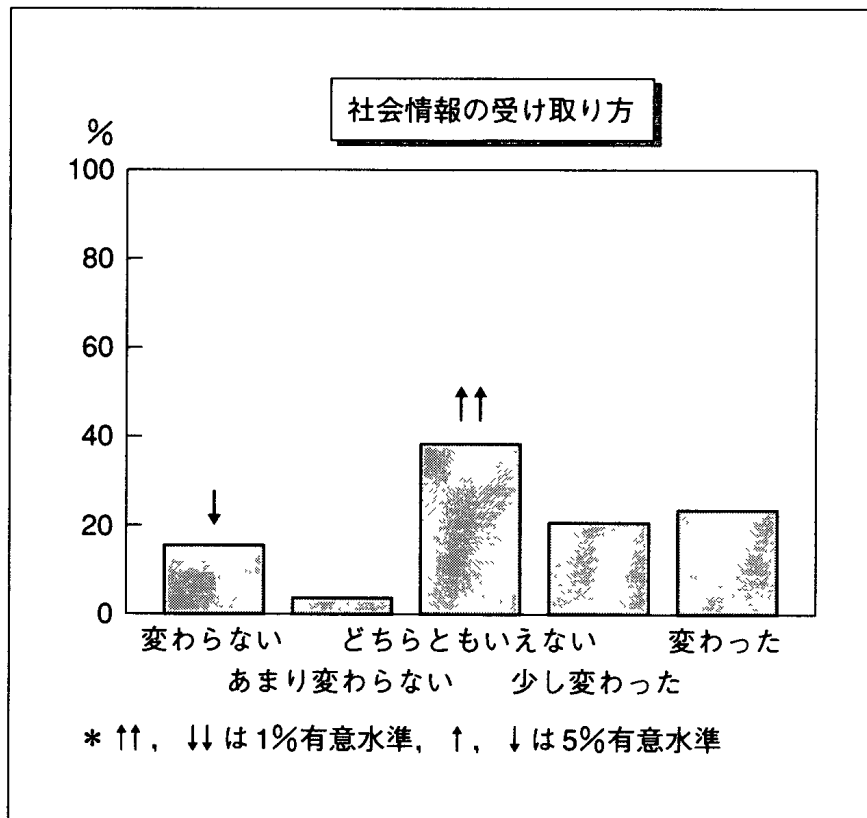


図 1-7

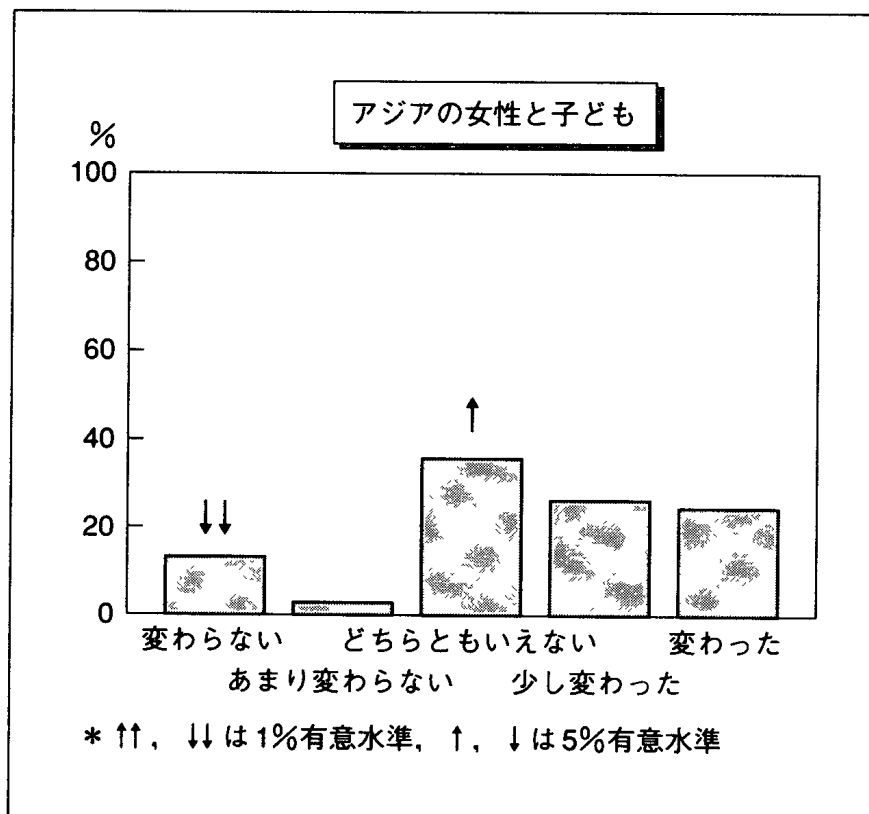


図 1-8

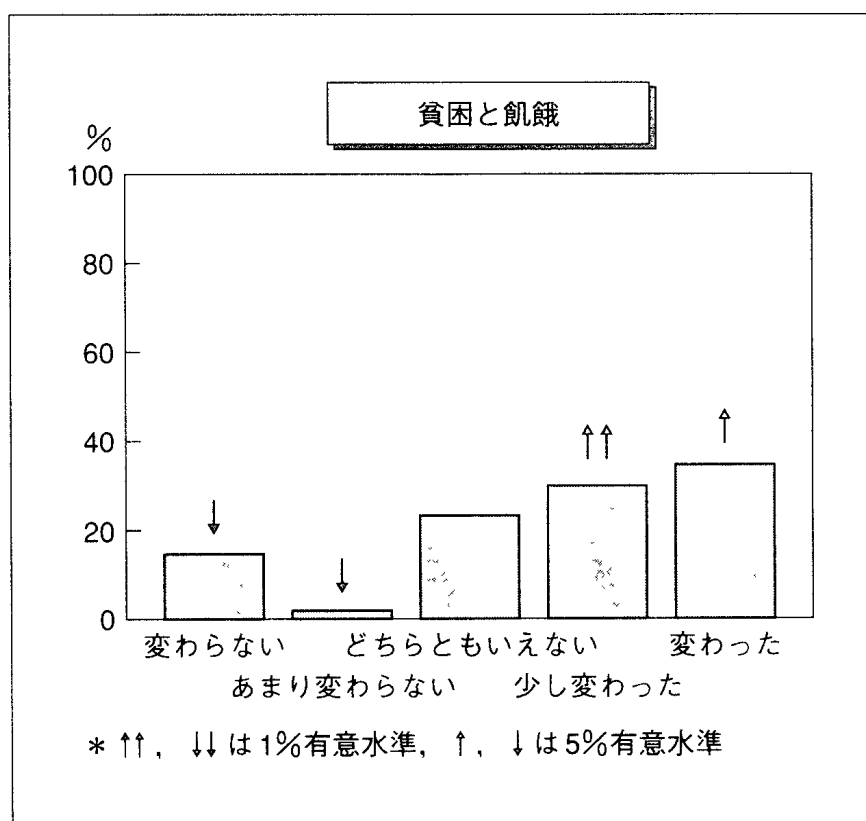


図 1-9

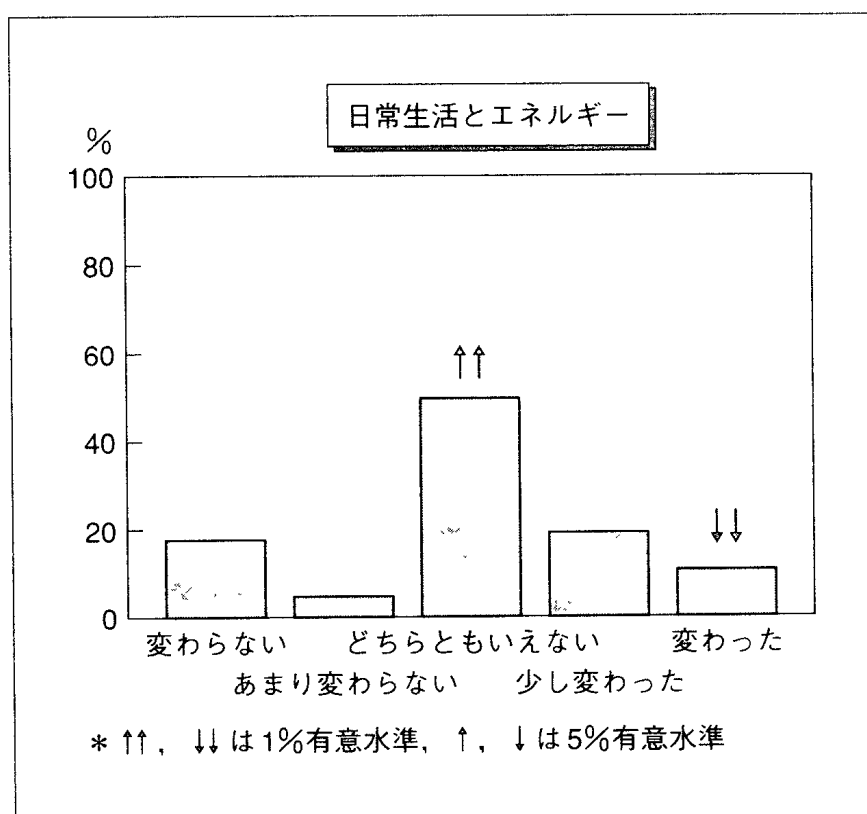


図 1-10

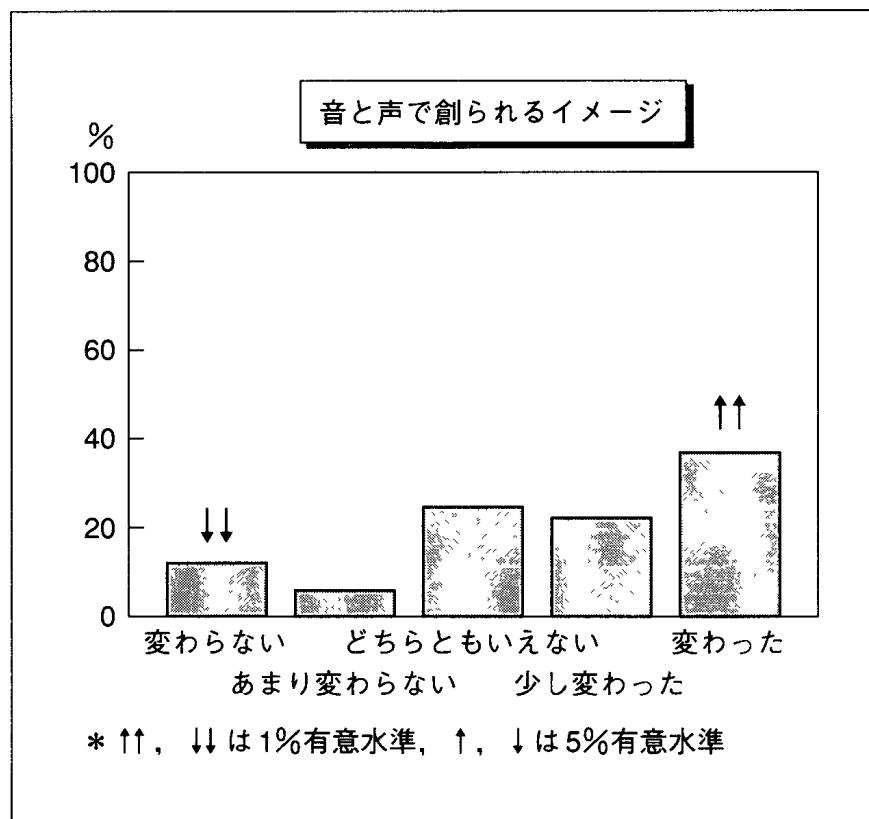


図 1-11

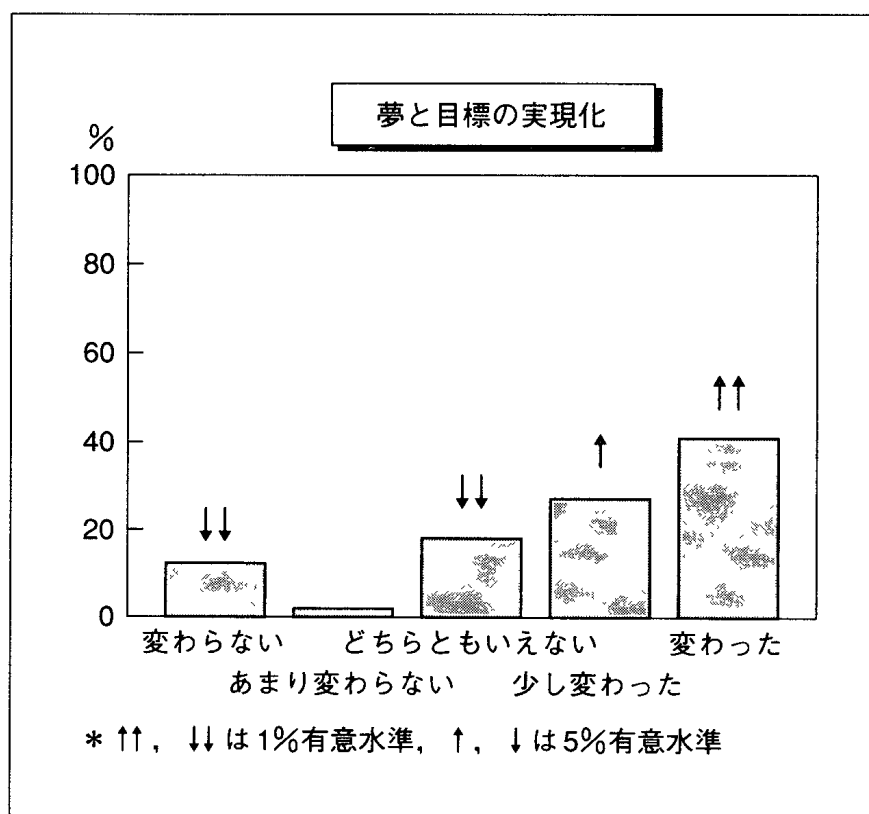


図 1-12

いえない」3点、「少し変わった」4点、「変わった」5点として加重平均値を算出したのが表11である。

図1に示された尤度比検定の結果と表11の加重平均値から、突出した変化の大きいものはみられないが、夢と目標の実現化、インターネットの利用法、食事の取り方と健康、音と声で創られるイメージ、貧困と飢餓について、が変化をもたらした項目といえよう。この結果は前項で述べたこととも一致することである。インターネットの利用法については、このような利用法もあるのだという発見が変化をもたらしたと考えられる。

一方、結婚に対する考え方や家庭のあり方については、ある程度自分の考え方を既に持っていて、態度の変化には繋がらないというであろうか。

4) 21世紀を輝く女性の時代にするための現在の気持ちでは(表12)、「なんとかなりそう」(25.0%)と「自信がついた」(13.5%)を合わせた回答が「不安」(21.2%)、「見通しは甘い」(11.9%)の合計を少しではあるが上回っていることに期待を寄せたい。

5) 現代社会で最も重要だと考えられていることは(表13)、経済の動

表12 21世紀を輝く女性の時代にするための現在の気持ち (%)

今のままの日常が続くと思う	26.2
まあまあ、なんとかなりそう	25.0
まだ、何もわからず、不安	21.2
見通しが開けて21世紀を生きていく自信がついた	13.5
21世紀が女性の時代となる見通しは甘い	11.9
講義を聞いてかえって混乱してしまった	2.3

表13 現代社会で最も重要なこと (%)

	平成10年	平成9年
経済の重荷	26.9	8.1
環境の整備	25.8	45.2
家庭のあり方	21.5	14.1
国際政治的問題(民族紛争・難民等)	12.3	21.9
エネルギー問題	6.2	—
情報化社会	4.2	7.4
異文化交流	1.5	3.2
その他	1.5	—

向、環境の整備、家庭のあり方であることがわかる。これを平成9年度の結果と比較してみると、尤度比検定の結果、経済の動向、家庭のあり方が増え（1%水準）、環境の整備（1%水準）、国際政治問題（5%水準）が減少していた。女子短大生にとっても現在の日本の経済不況が昨年以上に、そして環境の整備以上に重要なことと受けとめられていることがわかる。ただし、平成10年度はエネルギー問題という選択肢が増えた為に、環境の整備へのポイントが多少減ったことは考慮すべきである。それにしても、経済の動向が家庭のあり方を重要なものとして認識させているとも考えられる。

6) 将来の生き方については、表8に示されているが、表8に基づいて受講前と受講後に生き方の態度の変化が見られたか否かの関係を表14にまとめてみた。全体的には変化はみられなかった（尤度比検定の結果は有意差なし）が、結婚後あるいは出産後仕事をやめるといった態度の人がわずかながらパートタイムの仕事につきたいに変化していることがわかる。

7) その他、社会人の参加については、世代の異なる人の意見・質問が聞ける、緊張感が出る、刺激を受ける、など肯定的意見が大多数であった。

表14 表8に基づく将来の生き方に関する受講前と受講後の態度の関係（人数）

受講後の態度	受講前の態度						
	育児から手が離れたらパートタイムの仕事につきたい	結婚・出産に関わらず仕事を続ける	育児から手が離れたら再びフルタイムの仕事につきたい	結婚したら仕事はやめる	結婚後、出産したら仕事はずっとやめる	結婚・出産に関わりなく仕事にはつきたくない	その他
育児から手が離れたらパートタイムの仕事につきたい	50	2	3	5	9	0	4
結婚・出産に関わらず仕事を続ける	5	25	2	0	0	1	2
育児から手が離れたら再びフルタイムの仕事につきたい	6	10	13	1	1	0	3
結婚したら仕事はやめる	4	1	0	10	1	0	1
結婚後、出産したら仕事はずっとやめる	0	1	1	2	0	0	0
結婚・出産に関わりなく仕事にはつきたくない	1	1	1	0	0	1	0
その他	0	1	0	1	0	0	2



### 3. 社会人の受講者との懇談会での意見

社会人の受講者との懇談会（最終講義の1週間後）での意見としては、「女性観の変遷」、「一筋の道を究めて」、「夢を追いかけて」に関心が集まった。受講者の多くの方は中高年ということもあり、自分のこれまでの歩みの振り返り、ラジオドラマへの郷愁、若い人への応援歌、といった意見が多かった。また、若い人たちと講義後少人数のグループに分かれて話し合う場を持ちたい、もっと若い人の意見を聞きたいとの希望がだされ、世代間のコミュニケーションを求めていることがわかった。

## V. 考 察

以上の結果から総合基礎科目のあり方、今後の問題、効果の測定の問題などを考察してみたい。

1) 今年度は21世紀と女性の生き方を重ね合わせて考えるものにしたいという意図があった。講師については特に女性の講師の場合、各世代にまたがるように配慮した。それぞれの世代の考えが各テーマの内容の中に反映されていたように思う。いろいろな意味での女性の自立について学生が積極的に考えることを期待している。その結果をいかに測ることができるか、今後の課題としたい。

2) 短大での2年間という短い期間に、何を学び、いかに学生生活を送るか、難しい問題である。学問への関心・意欲を持たせると共に、実務的な教育も重要である。

総合基礎科目は、いろいろな学問の分野への関心を呼び起こし学問することへの意欲を高めることに役立つものでありたい。と同時に短大における教育に対して即戦力としての期待が企業などより寄せられていることを考えると、講師の中に企業の第一線で活躍している人を選ぶ、また各種企業で働いている本学卒業生を数人選んでパネルディスカッションをする、ということによって実務教育への関心を高めることも必要ではないかと考えられる。

3) 社会人の参加は社会人の受講者にとっても、学生にとっても非常に好評であるので、続けていきたいものである。

4) 講義ごとに毎回提出させるレポートは、そのテーマに関心を持っている学生は内容の量においても、質においても優れている。このレポートの内容の分析を試みることにより、効果についてのより良い測定ができるのではないかと考えられる。

## VI. おわりに

課題がますます生まれてくる総合基礎科目ではあるが、今後も検討を重ねていきたい。

今年度の講師の方々にここでお礼を申し述べるとともに、積極的にご参加くださり、貴重なご意見をいただいた社会人の受講者の方々にも感謝の意を表したいと思う。

### 参考文献

- 1) 永田照子，小川真理子「一般教育における『総合基礎科目』の役割」，飯山論叢，第15巻第1号，pp. 44～62，1998.
- 2) 永田照子「女子短大生の『家族に対する意識』」，飯山論叢，第12巻第2号，pp. 116～124，1995.